

4 防災・減災対策の推進方針

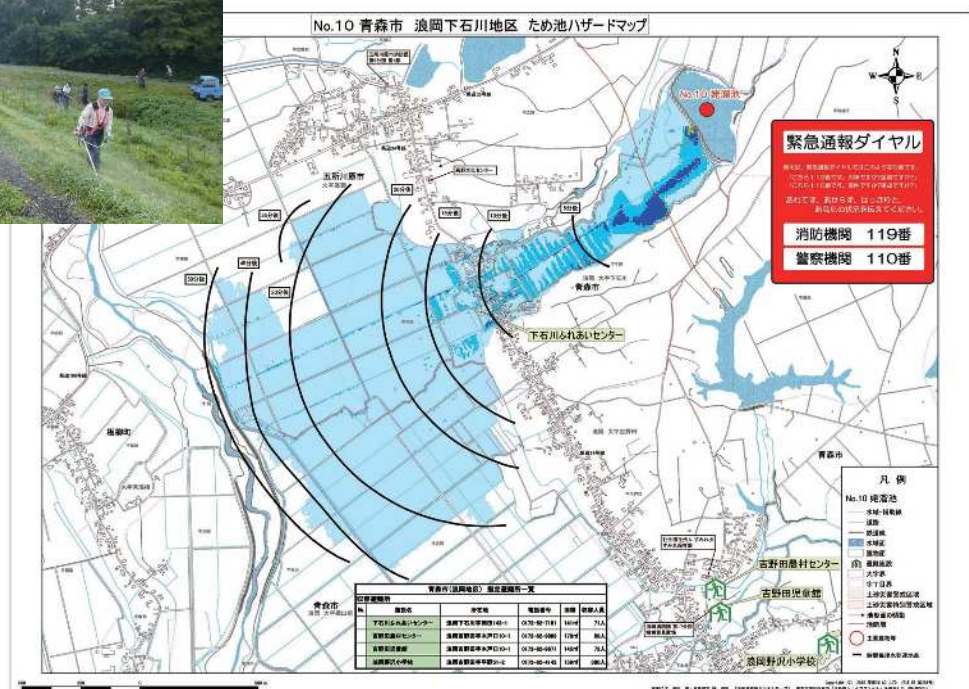
古くから稲作が行われていた青森県では、江戸時代を中心に多くのため池が築造された。これらのため池は農業用の水源としてのみならず、長い年月のうちさまざまな動植物が移り住み独特な生態系を形作って、貴重な水辺空間としての役割をも担っている。

東日本大震災ではため池の決壊による甚大な被害が発生し、その後も局地的豪雨が頻発したことにより、ため池の防災・減災対策への関心が高まっているが、全ての自然災害のリスクに対して施設整備のみで対応することは、整備に要する費用やため池の生態系や水辺空間としての活用に及ぼす影響を考慮すると現実的ではない。

このため、防災・減災対策の優先度の考え方を明らかにした上で、徹底した管理や点検、ハザードマップの作成と地域住民への周知、防災関係機関との連携などのソフト対策をため池の防災・減災対策の中心としつつ、必要なため池のハード対策を進める。

また、ハード対策の効率的な実施及び費用の平準化を図るため、インフラ長寿命化基本計画や青森県公共施設等総合管理方針に則し、長寿命化計画を作成する。

徹底した管理と点検



ハザードマップの作成